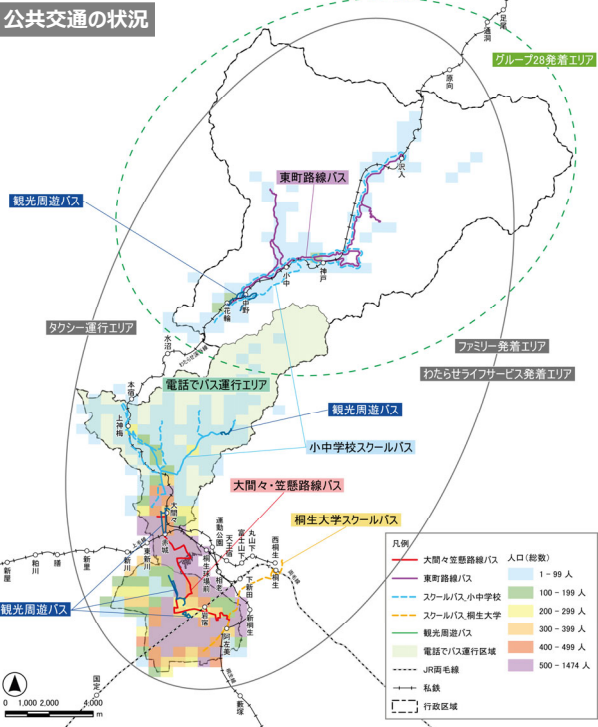
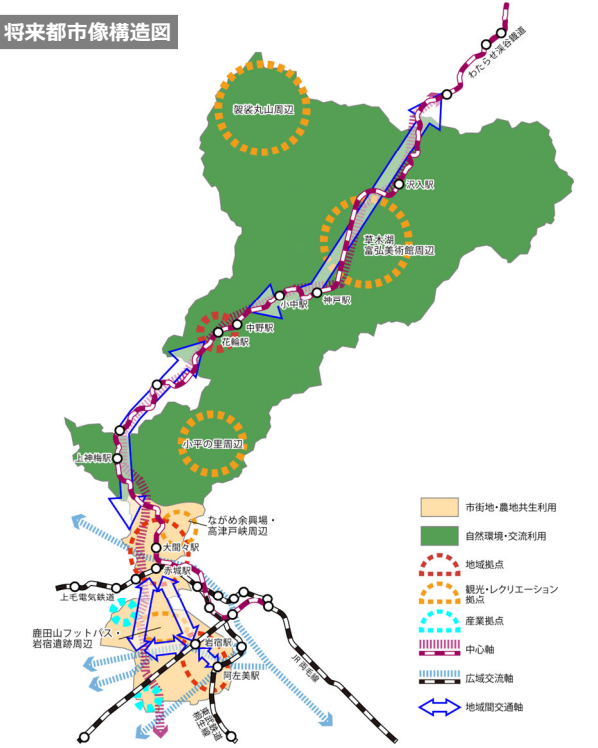


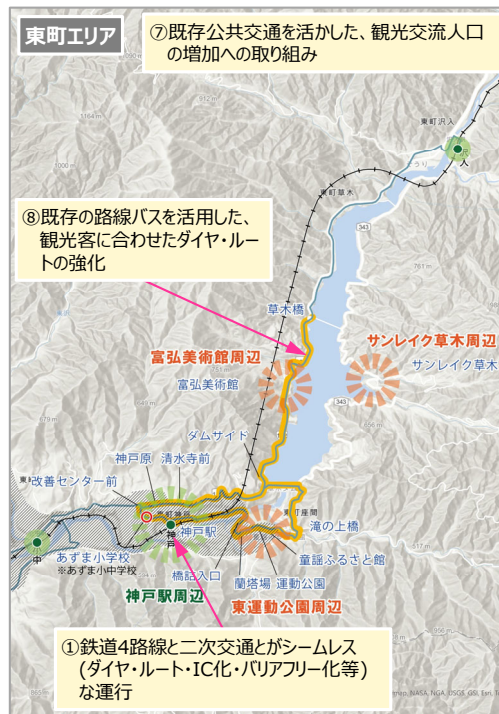
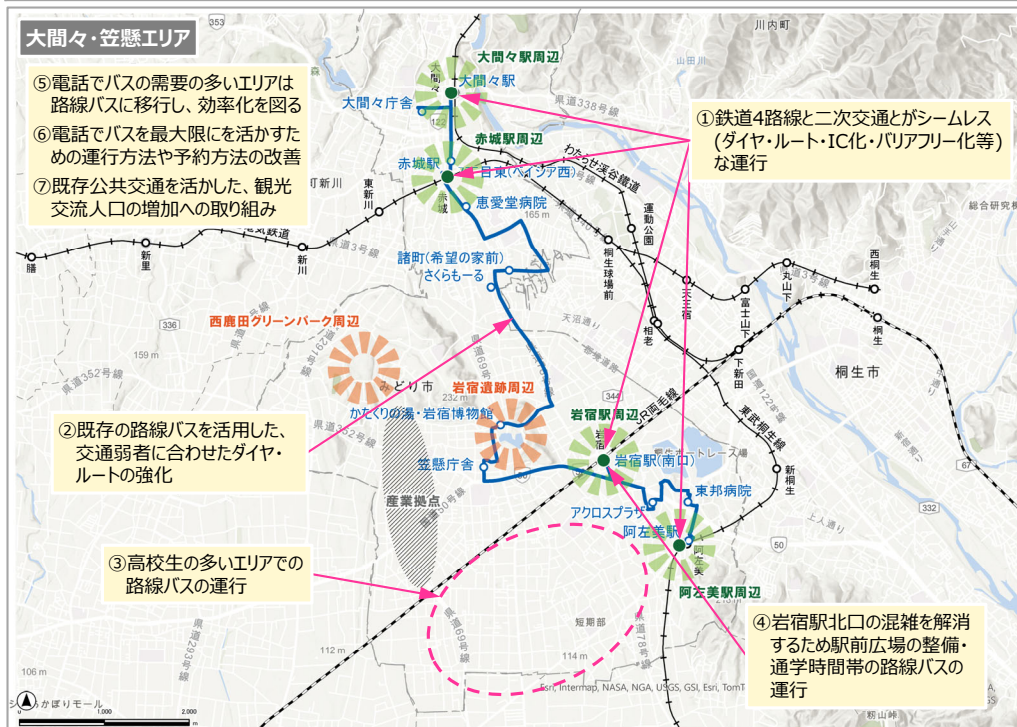
1-1.上位・関連計画		
第2次みどり市総合計画	将来像	・輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市
	公共交通が目指す姿	・公共交通の利便性が高まるとともに、交通弱者の交通手段が確保されます。
	公共交通に関する方針	・公共交通の利便性を高め、移動に困らない生活を目指します。
群馬県交通まちづくり戦略	目指すべき将来像	・ぐんまらしい「快疎」な空間の形成とそれを支える多様な移動手段が整った社会
	基本方針	・ニューノーマルにも対応した安全・快適で持続可能な公共交通サービスの確保・維持 ・DX・新技術導入による公共交通サービスの効率化・高度化 ・交通まちづくり分野の脱炭素化の推進 ・まちづくりと連携した基幹公共交通軸の確保・維持（市町村域を越える広域的な公共交通） ・まちづくりと連携した地域的な暮らしの足の確保・維持（市町村内における多様な移動手段）
みどり市都市計画マスタープラン	まちづくりの理念	・豊かな自然と多様な特性を生かし、人々が心豊かに生活できるまちづくりの実現
	目指すべきまちの姿（公共交通）	・まちと郊外・まち同士をぶなく、だれもが安全・便利に移動できる交通ネットワーク

1-2.地区ごとの特性	
大間々町	・人口は減少傾向。上毛電鉄・東武桐生線沿線を中心に 高校生・高齢者が多く居住 。 ・わたらせ渓谷鐵道の主要駅である大間々駅をはじめ、医療施設・観光資源・大間々高校など、 各施設が充実 。
笠懸町	・直近9年間で 人口を維持し、一部で人口増加 。JR両毛線沿線を中心に 高校生・高齢者が多く居住 。 ・商業施設・医療施設・桐生大学など、 各施設が充実 。
東町	・人口は減少傾向。三地区の中で 最も総人口の減少率が高く 、高校生は市全体の1%、高齢者は市全体の6%。 ・わたらせ渓谷鐵道の沿道を中心に 観光資源が豊富 。

		1-3.現況	現況から見える「仮説」
地域特性	人口	・2045年の人口は、市全域で減少。 岩宿駅周辺、赤城駅・大間々駅周辺に多く分布 。東町では、 分布の傾向は変わらない 。	● 岩宿駅周辺 の南部は駅から1.5～2.0km程度あり、 鉄道駅までの移動手段が必要 。 東町のわ鐵沿線でも市内・市外への移動手段が必要 。
	通勤・通学	・通勤流入・流出者はみどり市周辺のほか、 多地域に及ぶ 。 ・通学流出者は、 みどり市周辺の通学者が多数 。	● 鉄道沿線への通勤者はマイカーから鉄道へと移行 できる人がある。 ●市外への通学者は、 各駅まで送迎が多い 。特に、 岩宿駅北口では朝の通学時間帯に送迎車による渋滞が発生 している。駅までの移動手段を必要としている 通学者が多い 。
交通特性	鉄道	・他市町村への通学手段として、 高校生が利用 。 ・コロナ禍により 利用者減少、回復傾向ではあるが戻り切らない 。	● 鉄道駅までの移動手段は、自転車や送迎となっているため、路線バス需要がある 。 ● 鉄道を利用していた高校生がコロナ禍により自転車を利用、リモートワークの普及により通勤者が減少 したためである。
	バス	・ JR両毛線・東武桐生線は、主に高校生の通学利用 。上毛電鉄は、主に 通勤・通学 での利用。 わたらせ渓谷鐵道は、主に高校生の通学・観光客の利用 。 ・ 大間々・笠懸路線バスは、主に大間々高校生の通学利用 。人口(高校生)が多い笠懸町の 一部で路線バスの空白地 。大間々高校生へのヒアリング結果を基に ダイヤ改正後、利用者増加 。 ・ 東町路線バスは、主に観光客の利用 。住民は、安価でかつドアツードアでの対応となる NPOの交通空白地有償運送を主に利用 。 ・電話でバスは、主に買い物・通院での利用。大間々・笠懸路線バスのバス停でもある「さくらもーる」「東邦病院」で 利用者が多い 。運行経費は、 年々増加 。	● 路線ごとで利用者が求める二次交通へのニーズは異なる 。 ● 空白地となるエリアで路線バスを運行すれば、更に利用が増える 。 ● 観光客のために路線バスの維持は必要となるが、住民が利用できる路線バスや他の手段を求めている 。 ●現在の路線の強化のほか、 商業施設・病院を経由する路線バス をがあれば、電話でバスから 路線バスへ移行する利用者 がいる。
	タクシー	・主に 高齢者の通院 で利用。 ・ 運転手不足により稼働率は低下 。コロナ禍により 夜間需要は減少 した。	● 主要な病院への路線バスの強化をすれば、路線バスを利用できる高齢者がいる 。
	スクールバス	・廃校となった小中学校校区を対象として、 小中学校3校でスクールバスが運行 。年々 利用者は減少 。日中は、 校外学習で使用 。 ・ 桐生駅・阿左美駅を経由する桐生大学のスクールバスが運行 。	● 利用者減少による、車両の小型化や通学・下校時以外での車両の活用 の可能性がある。 ● R7年度に改正予定の大間々・笠懸路線バスが桐生大学へ乗り入れる予定 。路線バスの 利用者の増加が見込める 。授業時間に合わせることで スクールバスの代替え手段となる 。
	NPO	・福祉有償運送により 高齢者・障がい者をターゲット とした、ドアツードアサービスを運行。	● 運転手不足や高齢化、送迎以外の要望があり持続的運営が困難になる 。
	観光周遊バス	・ 観光客をターゲット とした、市内観光地を周遊する低速電動バスを運行。	● 鉄道・路線バスのダイヤ・ルートに合わせた運行があれば観光交流人口が増加する 。



2.現況から見た課題



3.課題解決に向けた「仮説」

4.「仮説」を検証するためのアンケート調査を実施

★ 鉄道と二次交通がシームレスな運行となったら**鉄道利用者が増えるのではないか。**

✓ 鉄道を利用するためには二次交通として**何を改善すべきか（ダイヤ・停留所・ルート・IC化・バリアフリー化・駅周辺の渋滞等）**を把握

対象：市民、高校生、観光客

★ 通学手段に困っている**高校生のニーズ**を中心に**大間々・笠懸路線バス**の見直しをすれば**利用者が**増えるのではないか。

✓ 大間々・笠懸路線バスを利用したい**ルート・停留所・ダイヤ**等を把握

対象：市民、高校生

★ 東町の住民や観光客のニーズに合わせて、**東町路線バス**の見直しをすれば、**利用者の増加や効率化**が図られるのではないか。

✓ 東町路線バスを利用したい**ルート・停留所・ダイヤ**等を把握

対象：市民、観光客

★ 条件によっては、電話でバスから鉄道や路線バスに移行しても問題なく移動ができる人が存在するのではないか。

✓ 電話でバスの利用者が**路線バスに求めていること**、電話でバスを**利用している頻度・時間帯・目的**等を把握

対象：市民

★ 電話でバスの利用者のニーズに合わせた**運行方法・予約方法**を改善すれば、**効率的に運行**できるのではないか。

✓ 電話でバスを利用している**頻度・移動パターン・時間帯、予約方法の改善点**等を把握

対象：市民

★ 観光客のニーズに合わせた公共交通を改善すれば、**観光交流人口が増加**するのではないか。

✓ **訪れる時期・場所、移動方法、公共交通に求めていること**等を把握

対象：観光客

凡例

